

# 学校でのAI導入完全ガイド

## 計画から実践まで、成功するためのステップバイステップ

発行: ニュークリエイター・オルグ

発行日: 2026年2月

### はじめに

生成AIの登場により、教育現場は大きな変革の時を迎えています。文部科学省も生成AIの活用を推奨し、多くの学校でAI導入が検討されています。

しかし、「どこから始めればよいのか」「どのように進めればよいのか」と悩む学校も多いでしょう。本ガイドは、学校でAIを導入する際の計画から実践まで、ステップバイステップで解説します。

本ガイドを参考に、貴校に合ったAI活用を進めてください。

## 第1章: AI導入の意義と目的

### なぜ今、学校でAIなのか

教育現場を取り巻く環境は、急速に変化しています。

#### 社会の変化

AIが社会に浸透し、多くの職業でAIが活用されています。子どもたちが社会に出る頃には、AIを使いこなすことが当たり前になっているでしょう。

学校教育においても、AIを適切に使いこなす力を育てることが求められています。

#### 学習指導要領の改訂

新しい学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」が重視されています。AIを活用することで、個別最適な学びや協働的な学びを実現できます。

## 教員の働き方改革

教員の長時間労働が問題となっています。AIを活用することで、業務を効率化し、教員が子どもたちと向き合う時間を増やすことができます。

## AI導入の目的

学校でAIを導入する目的は、以下の3つに整理できます。

### 1. 子どもたちの学びを豊かにする

個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びを実現し、子どもたちの学びを豊かにします。

### 2. 教員の業務を効率化する

授業準備、成績処理、保護者対応などの業務を効率化し、教員が子どもたちと向き合う時間を増やします。

### 3. 情報リテラシーを育てる

AIを適切に使いこなす力、情報を批判的に評価する力を育てます。

## AI導入で期待される効果

AI導入により、以下の効果が期待できます。

### 子どもたちへの効果

- 個別最適な学びの実現
- 学習意欲の向上
- 探究心の育成
- 情報リテラシーの向上
- 批判的思考力の育成

### 教員への効果

- 業務時間の削減

- 授業準備の効率化
- 個別対応の充実
- 授業の質の向上

### 学校全体への効果

- 教育の質の向上
  - 保護者の満足度向上
  - 学校の魅力向上
- 

## 第2章: 導入前の準備

---

### 情報収集

まずは、AI活用に関する情報を収集します。

#### 文部科学省のガイドライン

文部科学省が発行している「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」を読み、国の方針を理解します。

#### 他校の事例

他校の事例を調べ、成功のポイントや課題を学びます。セミナーや研修会に参加することも有効です。

#### 専門家への相談

AI活用の専門家や、すでに導入している学校の教員に相談し、アドバイスをもらいます。

### 推進体制の構築

AI導入を推進する体制を構築します。

#### 推進委員会の設置

校長、教頭、情報科教員、各教科の代表などで構成される推進委員会を設置します。

推進委員会は、導入方針の策定、計画の立案、進捗管理などを行います。

## 推進リーダーの選定

AI活用に詳しい教員を推進リーダーに選定します。推進リーダーは、教員への研修や日常的なサポートを行います。

## 校内サポーターの配置

各学年や教科に、AI活用をサポートするサポーターを配置します。サポーターは、困っている教員を支援します。

## 現状分析

学校の現状を分析し、課題を明確にします。

## 教員のICTスキル

教員のICTスキルを把握します。スキルに応じた研修計画を立てます。

## ICT環境

学校のICT環境を確認します。ネットワーク、端末、ソフトウェアなどが十分かを確認します。

## 教育課題

学校が抱える教育課題を明確にします。AI活用によって、どの課題を解決したいのかを明確にします。

## 方針の策定

学校としてのAI活用方針を策定します。

## 導入の目的

なぜAIを導入するのか、目的を明確にします。

## 期待される効果

AI導入によって、どのような効果を期待するのかを明確にします。

## 利用ガイドライン

AIを使ってよい場面、使ってはいけない場面、個人情報の取り扱い、引用のルールなどを定めます。

### セキュリティ対策

個人情報の保護、不適切な情報へのアクセス防止など、セキュリティ対策を定めます。

### 段階的な展開計画

いきなり全校で導入するのではなく、段階的に展開する計画を立てます。

### 予算の確保

AI導入に必要な予算を確保します。

#### 必要な費用

- AIツールの利用料
- 研修費用
- 外部講師の謝金
- ICT環境の整備費用

#### 予算の確保方法

- 学校予算からの配分
- 自治体の補助金
- 文部科学省の補助金
- 企業との連携

---

## 第3章: パイロット実施

---

### パイロット実施の重要性

いきなり全校で導入するのではなく、まずは小規模なパイロット実施を行います。

パイロット実施により、学校に合った活用方法を見つけ、課題を明確にし、全校展開の準備をします。

## 参加者の選定

パイロット実施に参加する教員を選定します。

### 有志教員

AI活用に興味がある教員を募集します。強制ではなく、自主的に参加する教員を選びます。

### 多様な教科

様々な教科の教員が参加することで、多様な活用方法を試すことができます。

### 適切な人数

パイロット実施の人数は、5名から10名程度が適切です。

## 研修の実施

パイロット実施の参加者向けに、研修を実施します。

### AIの基礎知識

AIとは何か、どのような仕組みか、何ができるのかを学びます。

### 基本的な使い方

AIの基本的な操作方法を学びます。実際に操作しながら学ぶハンズオン形式が効果的です。

### 授業での活用方法

授業でどのようにAIを活用できるかを学びます。具体的な活用事例を紹介します。

### 利用ガイドライン

学校の利用ガイドラインを確認し、守るべきルールを理解します。

## 実践と振り返り

パイロット期間中、参加者は各自の授業でAIを活用します。

### 実践

それぞれの教科で、AIを活用した授業を試みます。様々な活用方法を試します。

## **記録**

活用した内容、生徒の反応、うまくいったこと、課題などを記録します。

## **振り返り会議**

週1回程度、振り返り会議を開催します。参加者が実践内容を共有し、互いに学び合います。

## **改善**

振り返りをもとに、活用方法を改善します。試行錯誤を繰り返すことで、学校に合った活用方法が見えてきます。

## **成果の共有**

パイロット実施の成果を、全教員に共有します。

## **報告会の開催**

パイロット実施の成果を報告する会を開催します。

## **具体的な事例の紹介**

どのような活用をしたのか、生徒の反応はどうだったのか、どのような効果があったのかを具体的に紹介します。

## **課題の共有**

うまくいかなかったことや、課題も正直に共有します。

## **質疑応答**

全教員からの質問に答えます。

---

## 第4章: 全校展開

---

### 全教員向け研修

全教員向けの研修を実施します。

#### 基礎研修

すべての教員が、AIの基本的な使い方を習得します。

#### 実践研修

パイロット実施で得られた知見をもとに、すぐに使える活用方法を紹介します。

#### ハンズオン

実際に操作しながら学ぶ時間を多く取ります。

#### 教科別研修

教科ごとに分かれて、その教科での活用方法を学びます。

### サポート体制の整備

全教員がAIを活用できるよう、サポート体制を整えます。

#### 推進リーダーによるサポート

推進リーダーが、日常的に教員をサポートします。

#### 校内サポーターによるサポート

各学年や教科のサポーターが、身近な相談相手となります。

#### 相談窓口の設置

困ったときにすぐに相談できる窓口を設置します。

#### マニュアルの作成

基本的な使い方や、よくある質問をまとめたマニュアルを作成します。

## 段階的な展開

無理に全教員が一斉に使い始めるのではなく、各教員のペースで進めます。

### 任意での活用

最初は、使いたい教員が使うという形で進めます。

### 成功事例の共有

成功事例を積極的に共有することで、他の教員も挑戦しやすくなります。

### 徐々に広げる

徐々に活用する教員を増やしていきます。

## 生徒への指導

生徒にもAIを使わせる場合は、適切な指導を行います。

### 情報リテラシー教育

AIとは何か、どのように使うのか、どのような注意が必要かを学びます。

### 利用ガイドラインの共有

生徒向けの利用ガイドラインを作成し、全生徒に配布します。

### 段階的な展開

最初は教員の指導のもとで使い、徐々に自分で使えるようにします。

---

## 第5章: 定着と改善

---

### 定期的な振り返り

定期的に振り返りを行い、改善します。

### 推進委員会の開催

月1回程度、推進委員会を開催し、活用状況を確認し、課題を共有し、改善策を検討します。

### **教員向けアンケート**

定期的に教員向けアンケートを実施し、活用状況や課題を把握します。

### **生徒向けアンケート**

生徒向けアンケートを実施し、生徒の意見を聞きます。

### **フォローアップ研修**

継続的にフォローアップ研修を実施します。

### **新しい活用方法の紹介**

新しい活用方法や、他校の事例を紹介します。

### **困りごとへの対応**

教員が困っていることに対して、解決策を提供します。

### **スキルアップ**

より高度な活用方法を学びます。

### **成果の測定**

AI活用の成果を測定します。

### **生徒の学習成果**

テストの成績、学習意欲、探究の質などを測定します。

### **教員の業務負担**

業務時間、授業準備時間などを測定します。

### **保護者の満足度**

保護者向けアンケートを実施し、満足度を測定します。

## 継続的な改善

測定結果をもとに、継続的に改善します。

### うまくいっていることは継続

うまくいっていることは、継続して行います。

### 課題があることは改善

課題があることは、改善策を検討し、実行します。

### 新しいことに挑戦

基本的な活用が定着したら、より高度な活用に挑戦します。

---

## 第6章: 保護者との連携

---

### 保護者への説明

保護者に対して、学校のAI活用について丁寧に説明します。

### 説明会の開催

保護者向けの説明会を開催し、AI活用の目的、方法、セキュリティ対策などを説明します。

### 学校通信での情報提供

学校通信で、AI活用の状況を定期的に報告します。

### ウェブサイトでの情報公開

学校のウェブサイトに、AI活用に関する情報を掲載します。

### 保護者の不安への対応

保護者の不安や疑問に、丁寧に答えます。

### 個人情報の漏洩への不安

セキュリティ対策を具体的に説明します。

### **学力低下への不安**

AIは学力を低下させるものではなく、適切に使えば学力向上につながることを説明します。

### **依存への不安**

学校でAIの適切な使い方を指導していることを説明します。

### **家庭との連携**

学校と家庭が連携して、子どもたちを育てます。

### **家庭向けガイドライン**

家庭でAIを使う際のガイドラインを提供します。

### **対話の促進**

子どもが学校でAIを使って学んだことを、家庭で話題にするよう促します。

### **保護者向け勉強会**

保護者がAIについて学べる勉強会を開催します。

---

## **第7章: よくある課題と対応**

---

### **教員の温度差**

#### **課題**

AIに積極的な教員と、消極的な教員の温度差があります。

#### **対応**

無理に使わせるのではなく、各教員のペースを尊重します。成功事例を共有することで、消極的な教員も徐々に関心を持つようになります。

## 技術的なトラブル

### 課題

ネットワークの不調やシステムのエラーなど、技術的なトラブルが発生します。

### 対応

トラブル発生時の対応マニュアルを作成します。サポート窓口を明確にし、困ったときにすぐに相談できる体制を整えます。

## 生徒の不適切な使用

### 課題

一部の生徒が、AIを不適切に使うことがあります。

### 対応

その都度指導し、なぜ不適切なのかを考えさせます。利用ガイドラインを見直し、より具体的なルールを示します。

## 予算の制約

### 課題

予算が限られており、高額なシステムを導入できません。

### 対応

無料や低コストのツールを活用します。既存の設備を有効活用します。段階的に導入することで、初期費用を抑えます。

---

## 第8章: 成功のポイント

---

### 明確な目的を持つ

なぜAIを導入するのか、目的を明確にします。目的が明確であれば、ブレることなく進められます。

## 段階的に進める

いきなり全校で導入するのではなく、段階的に進めます。小さな成功を積み重ねることで、大きな成功につながります。

## 教員の理解と協力を得る

教員の理解と協力がなければ、AI活用は成功しません。丁寧に説明し、不安や疑問に答え、教員が安心して取り組める環境を作ります。

## 継続的なサポート

研修を実施して終わりではなく、継続的にサポートします。困ったときにすぐに相談できる環境があることが、教員の安心につながります。

## 成功体験を共有する

成功事例を積極的に共有することで、他の教員も挑戦しやすくなります。小さな成功でも、積極的に共有します。

## 保護者との連携

保護者の理解と協力を得ることが重要です。丁寧に説明し、透明性を持って情報を提供します。

## 継続的な改善

一度導入して終わりではなく、継続的に改善します。振り返りを行い、より良い活用方法を探ります。

---

## おわりに

学校でのAI導入は、決して簡単なことではありません。しかし、適切な方法で進めれば、子どもたちの学びを豊かにし、教員の業務を効率化し、学校全体の教育の質を向上させることができます。

本ガイドが、貴校のAI導入の一助となれば幸いです。

ニュークリエイター・オルグは、学校でのAI導入を包括的にサポートしています。計画の策定から、研修の実施、日常的なサポートまで、貴校の状況に合わせたサービスを提供していますので、お気軽にご相談ください。

---

## お問い合わせ

ニュークリエイター・オルグ

ウェブサイト: <https://newcreator.org/>

お問い合わせ: <https://newcreator.org/for-educators/>

---

© 2026 ニュークリエイター・オルグ